

東京学芸大学

2025年12月13日

文部科学省事業報告会

# 「みんなで使おう学校図書館Vol.17」



鎌田和宏 (帝京大学)

# 附属竹早小学校の実践報告 (高須先生・宮崎司書) をめぐって

- ・「詩」の実践（読書活動）～凝縮された表現への接近～
  - ・感性に訴える学習活動（韻文ならではの）⇔身体性
  - ・創作と活字表現（デジタル）・手書き表現（リアル）
  - ・横書きと縦書き
  - ・電子と紙の「詩集」の違いを子どもは、実践者はどう捉えたか→制約なのか、拡張なのか
    - ・画面が明るい・双方向性・読み上げ（是非：子どもの思いとのズレ）
- ・電子書籍利用の実践
  - ・残された半分へのアプローチ
  - ・デジタルで読むこと、アナログで読むこと
  - ・先導的試行に期待
- ・「技術に依存しない多様な情報源」を提供する学校図書館から「あらゆる情報源を提供する」学校図書館へ

# 附属世田谷中学校の実践報告

## (渡邊先生・岩本先生・阿部先生・村上司書) をめぐって

- ・「図書館へ行って話してみましよう」協働の契機
- ・「授業で本を手にする」読書の契機
- ・A I 時代だからこそその美術×国語
- ・総合的な表現活動の魅力（言葉の獣・かれんな花）
  - ・「想像⇔創造こそ人ならではの営み」
  - ・それを保障する美術の時間・深化を図る国語の時間
- ・表現を支えるインフラとしての学校図書館
  - つなげる・ひろげる・価値創造
- ・実践の継起的発展 コラボ→カリキュラム・マネジメント



# 「みんなで使おう学校図書館」に期待する 今、学校図書館専門職員に求められるものとは

## ・ A I 時代の学校教育を支えるスタッフとして

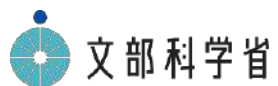
読めない A I が読んだふりしてそれらしいことを言う時代だから

- ・ 本が好き
- ・ 本が使える

読める子どもを育てる

- ・ 多様なメディアの特性を把握した情報の利用ができる。
- ・ 「読め」れば今は読まなくてよい？





文部科学省

教育課程企画特別部会

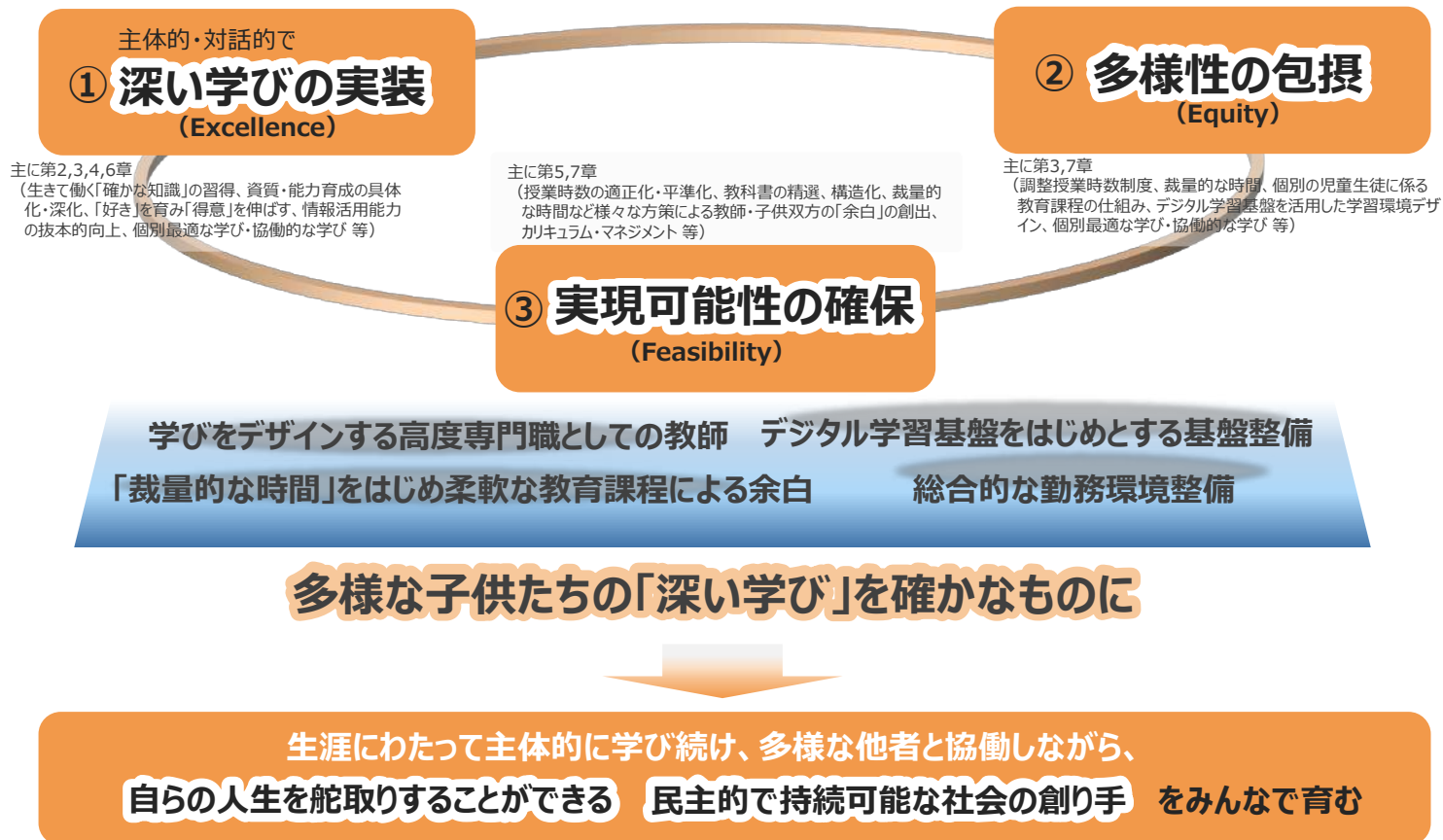
# 論点整理

令和7年9月25日  
中央教育審議会  
教育課程企画特別部会

# 次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

補足イメージ 1 - ①



「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

補足イメージ1-②

自らの人生を舵取りする力と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成（今後の検討イメージ）

「好き」を育み、「得意」を伸ばす  
（興味・関心）



当事者意識を持って、自分の意見を  
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした  
主体的な進路選択の促進

高  
中  
小  
幼

課題設定  
の充実

グループ探究  
個人探究

総合



生きて働く「確かな知識」の習得

興味・関心が広がる  
教材・学習方法の選択を促進

自分の意見を表現する活動の充実

探究的な要素を持つ学習活動の充実

家庭学習の内容を自律的に決めら  
れるような段階的指導  
（家庭学習はじめ学習習慣の確立を含む）

各教科等

児童生徒主体のルール  
形成や学校生活改善、  
行事の創造等の明確化  
（みんなが学びやすいルールや環  
境の構築を含む）

納得解を形成しようとす  
ることの重要性の明文化  
（安易な多数決の回避や少数意  
見の吟味）

特別活動

考え、議論する  
道徳の徹底

（主体的な判断の  
重要性、知・徳・体  
の調和のとれた発達  
に向けた、道徳的価  
値の対立を乗り越え  
る必要性や道徳的  
実践の強調）

道徳

言葉を用いて思考を深めていく指導

他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り残さない  
視点としての個別最適な学びと協  
働的な学びの一体的充実

科学的知見も生かした  
効果的な指導計画・授業方法  
児童生徒の学習方略の指導

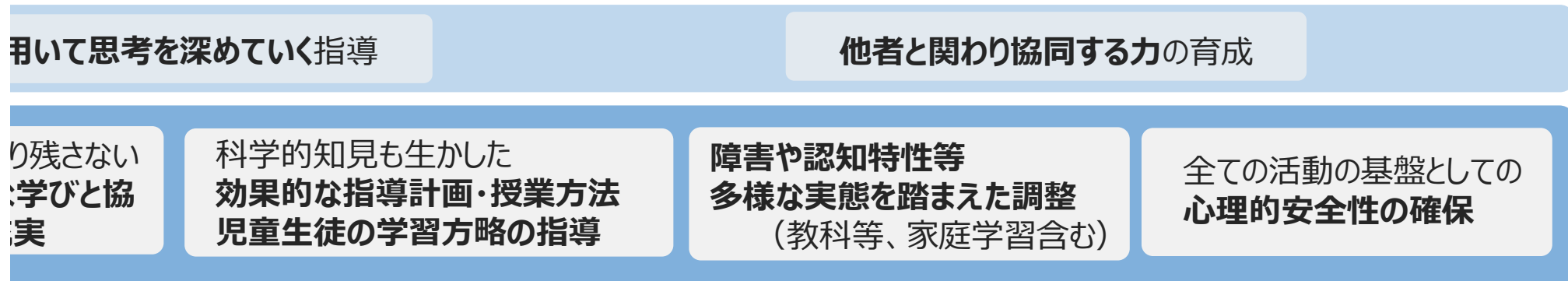
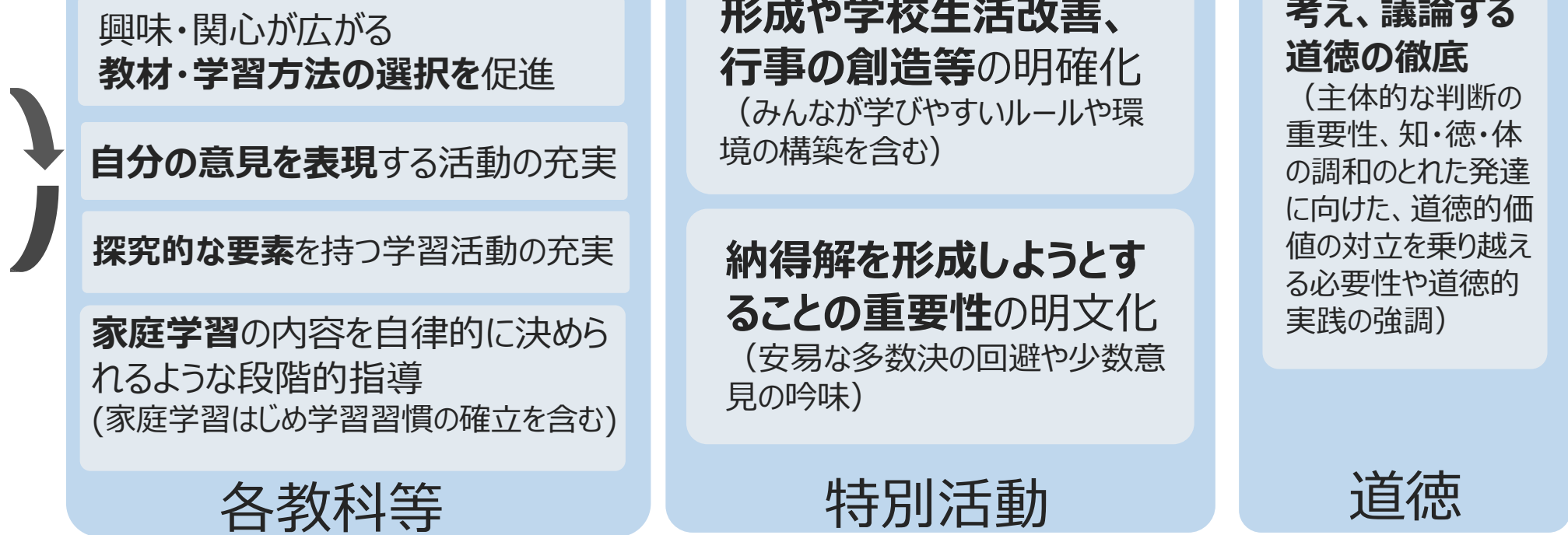
障害や認知特性等  
多様な実態を踏まえた調整  
（教科等、家庭学習含む）

全ての活動の基盤としての  
心理的安全性の確保

学びをデザインする高度専門職としての教師  
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備  
総合的な勤務環境整備

※本イメージ図は、自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成という今後の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない



インする高度専門職としての教師  
はじめ柔軟な教育課程による余白

**デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備**  
**総合的な勤務環境整備**

の創り手育成という今般の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない





## 学習指導要領の構造に関する現状と課題

### 【前回改訂における改善】

- 各教科等の目標・内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力の柱で整理された

※以下本資料で、「知・技」は「知識及び技能」を、「思・判・表」は「思考力、判断力、表現力等」を、「学・人」は「学びに向かう力、人間性等」を指す

- 特に、内容は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を中心に一定の構造化が図られた

※「学びに向かう力、人間性等」は、目標で整理されたものを内容で共通的に扱う

- 総則における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の提起により、知識相互を関連付けてより深く理解することなど、学びの質（深さ）を追究する方向性を明確化した

分  
かり  
にく  
い  
と  
の  
成  
果  
摘

### 【なお残る課題】

#### ① 資質・能力の深まりのイメージが掴みにくい

「個別の知識を学びながら、新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる」ことを目指す授業を創る上で、個別の知識や技能が関連付けられた状態、各教科等の主要な概念の深い理解との関係（「タテ」の関係）のイメージしやすさに改善の余地がある

#### ② 資質・能力の複数の柱を一体的に育成するイメージが掴みにくい

「『思考力、判断力、表現力等』を発揮することを通して、深い理解を伴う知識が習得され、更に『思考力、判断力、表現力等』が高まる」授業を創る上で、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の相互の関係（「ヨコ」の関係）のイメージしやすさに改善の余地がある

#### ③ 教科書「を」教える授業、「本時主義」からの脱却に至っていない

①、②の課題も相まって、学習指導要領と児童生徒・地域の実態を踏まえ、「どのような力（資質・能力）を身に付けて欲しいか」という認識から出発し、そのための授業のまとまり（単元や題材）を構想し、その上で、教科書や教材をどう使い、一コマ一コマの授業を創るというプロセスが実現しにくいのではないか

→①～③の課題を解決することが、教師が「深い学び」を実現する授業のイメージを掴み取りやすくするために不可欠といえる



## 具体的な方向性と論点

### 【検討の方向性】

### 【論点】

論点① より「深い学び」を実現する授業のイメージを教師が持てるよう、前回改訂の構造化を更に発展させ、

- (i) 「知識及び技能」相互、「思考力、判断力、表現力等」相互の「タテ」の関係、
- (ii) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の相互の「ヨコ」の関係、

を教師が「掴み取りやすくする」ための改善を行うことが必要である

### ① 構造化

- 各教科等の「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」（以下「中核的な概念等」という。）を中心に、学習指導要領の目標・内容の一層の「構造化」を図る観点から、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」に応じた中核的な概念等の具体について、共通性を重視しつつ、各教科等の特性も踏まえて検討すべき
- その際、学校段階や教科等の特性を踏まえつつ、各教科等の中核的な概念等の獲得に重点を置くために必要な学習内容を検討したり、必要に応じた精選を行う方向で検討すべき
- 構造化は、記載の冗長・複雑さの改善によるスリム化、教科等や学年等を横断した俯瞰しやすさの向上にも資するものであり、そうした観点も踏まえて検討すべき
- 以上の必要に応じた精選を含む構造化の基本的な方針について、今後、総則・評価特別部会で速やかに検討した上で、各教科等WGで当該方針を踏まえて具体の検討を丁寧に進めるべき
- 構造化は、これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力を一層明らかにするものであり、「社会に開かれた教育課程」の理念を具現化するものといえる

### ※ 基礎的・基本的な内容との関係

- 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果等でも、各教科での基本的概念の理解・定着に課題が見られた
- 本部会でも、例えば分数の計算に当たって、前提としての分数の概念が理解できていない小学生が多い等のデータを踏まえ、認知心理学等の観点から、個別の知識の集積に止まらない概念としての習得や意味理解を含む「深い学び」を促す指導の重要性を検討してきた
- こうした中で提起した中核的な概念等による教科等の目標・内容の構造化は、「深い学び」を実現する授業のイメージを教師が持てるようにすることで、「確かな知識」の習得にも寄与するものであり、そうした視点を踏まえて今後のWGでの検討も行うべき



## 具体的な方向性と論点

### 【論点】

論点② 授業づくりに積極的に活用できるよう、各教科の目標・内容の全体像や、「タテ」「ヨコ」の関係性など、教師にとって構造が視覚的に理解しやすく、分かりやすく、使いやすい記載の在り方について検討する必要がある

論点③ 告示される学習指導要領は単一の形式とならざるを得ないが、実際に授業づくりを担う一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいという観点から、デジタル技術を活用することにより、解説を含めた学習指導要領のユーザビリティ・アクセシビリティの向上について検討する必要がある

### 【検討の方向性】

#### ②表形式化

- 表形式や箇条書きを積極的に活用することを検討すべき
- 表形式化は、記載の冗長・複雑さの改善によるスリム化、教科等や学年等を横断した俯瞰しやすさの向上にも資するように検討すべき

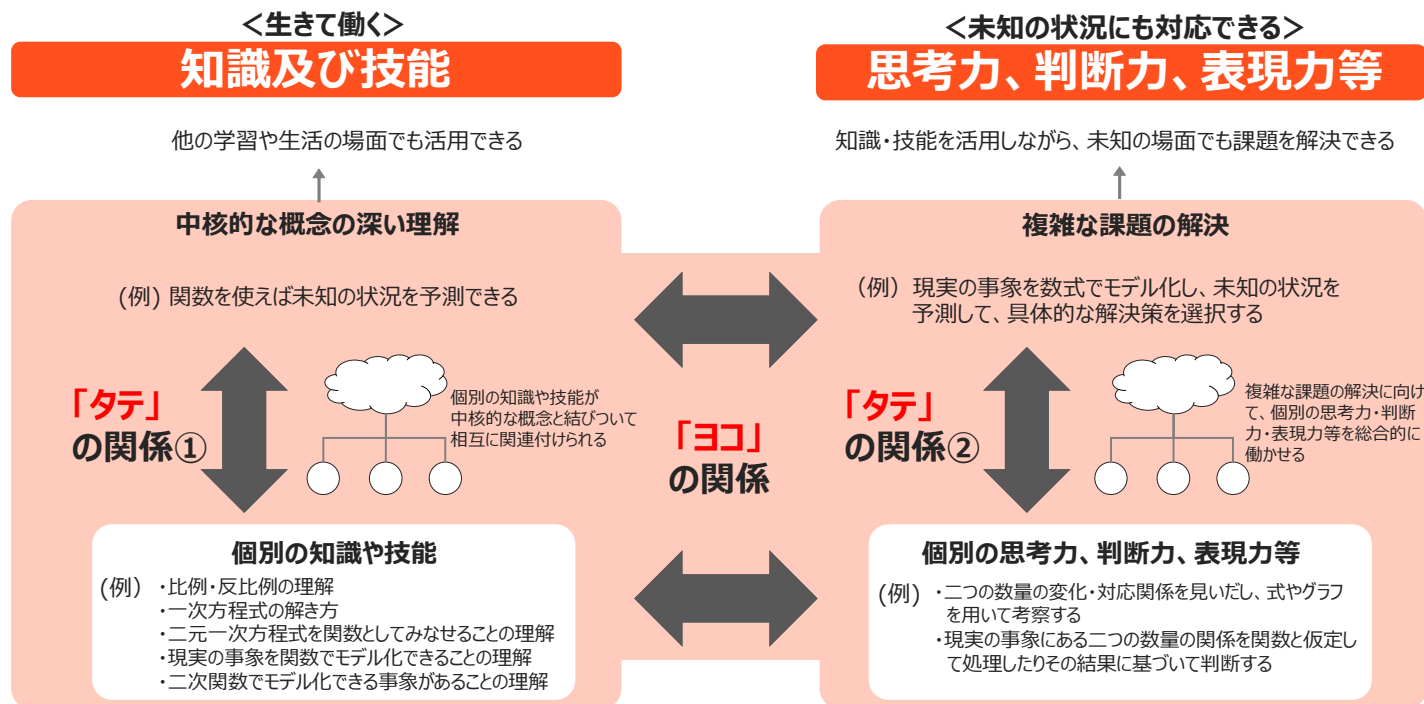
#### ③デジタル化

- 一人一人の教師が以下のようなことができる「デジタル学習指導要領」の実現に向けて、検討を加速すべき（所要の概算要求を行う）
  - ✓ 教科等間の関係、学年段階や学校種間の記載が容易に俯瞰できる
  - ✓ 学習指導要領コードも活用し、学習指導要領とデジタル教科書・教材を紐づけることにより、相互のアクセス等が一層円滑となる
  - ✓ AI等の活用により、日々の授業づくりに関わる疑問に対するフィードバックを受けたり、指導案のたたき台等の作成が容易になる

➡ 「構造化・表形式化・デジタル化」を一体的に進め、参照や指導案等の作成がしやすい「分かりやすい」「使いやすい」学習指導要領とすべき

## 「タテ・ヨコの関係」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要（タテの関係①）。思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（タテの関係②）
  - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（ヨコの関係）
- ➡こうした「タテ・ヨコの関係」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



## 学習指導要領の構造化・柔軟な教育課程を契機とした教科書等の改善

補足イメージ5-④

### ① 学習指導要領の構造化

- 生成AIが飛躍的に発展する中、個別の知識の集積にとどまらない概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味、社会やキャリアとのつながりを意識した指導が一層重要
- そのため、学習指導要領において、各教科等の本質的理解（中核的な概念等）の獲得に重点を置き、学校段階や教科等の特性を踏まえつつ、そのために必要な学習内容を検討したり、必要に応じた精選の上で構造化

※精選：多くの中から良いものをよりすぐること

#### 現在

知・技  
思・判・表  
知・技  
思・判・表  
内容事項を順に列記

#### 改善の方向性

中核的な概念の深い理解（仮）  
複雑な課題の解決（仮）  
知・技  
思・判・表  
知・技  
思・判・表  
中核的な概念等を基に構造化

### ② 標準授業時数の弾力化

- 調整授業時数制度により、各教科の標準授業時数を減じて生み出した授業時数を、他教科等や「裁量的な時間」等への充当を可能とすることを検討

※上限は現在の時数特例では1割、今後、拡大の可否を検討

#### 各教科の時数

減  
裁量的な時間  
他教科の増  
新教科創設 等

多様性を包摂し、教育の質を高める「余白」

中核的な概念等を  
掴みやすい方向で改善

裁量の余地を増やす方向で改善  
(各教科の標準を下回る時数で指導可能に)

### ③ 教科書の重点化・内容の精選

#### 教科書

- 学習に必要な情報の大半を網羅
- 多数の用語・キーワード等の豊富な事実的知識やその確認問題
- 教科書の指導で授業が完結（→依然として教科書「を」教える実態も）

#### その他

- 補足的に活用

#### 改善の方向性

- 中核的な概念等の獲得に資する内容に重点化・内容を精選
- 教科書「を」教えるから、教科書「で」教えるへ

↑精選

探究学習や裁量的な時間の余白創出

- 児童生徒の関心等に応じた多様な教材活用
- 紙に加え、デジタル学習基盤や学校図書館・公立図書館がインフラとして機能

教師用指導書は、精選された教科書の分量や裁量の余地を踏まえつつ、多様な授業アイデアや教材活用の可能性を盛り込む方向で改善を要請する方向

#### 改善の実効性確保

### ④ 入試

「教科書を全て教えなければならない」という網羅主義を脱して、学習指導や教科書の改善を実効性あるものとするとともに、教育課程の実施に伴う教師・生徒の負担を軽減するためには、高校入試の改善を一層進めていくことが必要。（第七章（2）参照）

理解（仮）

（仮）

知・技

思・判・表

知・技

思・判・表

中核的な概念等を基に構造化

数の弾力化

各教科の時数

多様性を包摂し、裁量

中核的な概念等を  
掴みやすい方向で改善

裁量の余地を増やす方  
（各教科の標準を下回る時数

## 現在の在り方

必要な情報の大半を網羅  
用語・キーワード等の豊富な事実  
やその確認問題  
の指導で授業が完結  
然として教科書「を」教える実態も）

に活用

## 改善の方向性

- 中核的な概念等の獲得に資する内容に重点化・内容を精選
- 教科書「を」教えるから、教科書「で」教えるへ



探究学習や裁量的な時間の余白創出

- 児童生徒の関心等に応じた多様な教材活用
- 紙に加え、デジタル学習基盤や学校図書館・公立図書館がインフラとして機能

改善の実効性確保

「教えなければならない」という網羅主義を脱して、学習指導や教科書の改善を実効性あるものとするとともに、  
教師・生徒の負担を軽減するためには、高校入試の改善を一層進めていくことが必要。（第七章（2）参照）



# 「みんなで使おう学校図書館」に期待する 今、学校図書館専門職員に求められるものとは

- ・ 次期学習指導要領の議論が進む中、学校図書館はどのような存在として捉えられているのだろうか？
- ・ 学校図書館とはどのような場なのだろうか？
  - ・ 居場所として学校図書館
  - ・ 3つのセンター機能
    - ・ 読書センターとしての学校図書館
    - ・ 学習センターとしての学校図書館
    - ・ 情報センターとしての学校図書館 **情報リテラシーを育てる**
- ・ 成長する有機体としての学校図書館の魅力⇔使われてこそ
- ・ 学校図書館の可能性を開発・発信し続けてほしい
- ・ 個（孤）をつなぐデータベース（事業）の継続・発展を

